

第92回 縮小社会研究会



日時 2025年12月13日（土） 17時～19時頃

場所 オンライン開催

ZOOM <https://us02web.zoom.us/j/82660975033?pwd=YwoKP9pBOhtfdMuQKS66WQVWIrww.1>

ミーティング ID: 826 6097 5033 パスコード: 142363

アメリカにおける2回目のトランプ政権発足からもうすぐ1年になります。トランプは大統領選挙で、政府が「腐敗した既得権益層」に乗っ取られてきたとして、軍産複合体や官僚組織などから成る「ディープステート（闇の政府）」解体なるものを国民に約束しました。

しかしトランプ政権にはビッグテックの経営者など大富豪が集結し、税制や医療保険などで富裕層優遇、高所得者の所得を増やす政策を推進しており、富裕層による寡頭政治であることが明らかになってきています。

またイーロン・マスクは政権を去りましたが、トランプに多額の献金をしてきたテック右派は政権との関係を強めて、ウクライナ軍や、ガザへのジェノサイドを続けるイスラエル軍にAI兵器システムを提供して利益を得ていることが指摘されています。バイデン政権下で米国の対イスラエル軍事支援は過去最高となりましたが、トランプ政権ではこれを精査するどころか、バイデン政権が差し止めていた1トン級の爆弾1800発をイスラエルに輸送しています。

富裕層と軍需産業から成る、新たな「ディープステート」が出現したかのようです。

トランプの「米国第一」は、アメリカに利益のない戦争にはかかわらないけれども、利益になるなら戦争に賛成したり継続を黙認するという論理になります。トランプ政権をはじめとする国連安保理常任理事国の発言や行動で、20世紀に整備発展させられた国際法は揺るがされています。

今期のトランプ政権で、世界、アメリカはどこに向かうのか。同志社大学の三牧聖子教授にお話しいただきます。ぜひご参加ください。（案内文文責：藤井悦子）

トランプ2.0と世界、アメリカの行方

三牧聖子（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授）

講師紹介：同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科教授。専門はアメリカ政治外交・国際関係論。東京大学教養学部卒、同大大学院総合文化研究科で博士号取得（学術）。早稲田大学助手、米国ハーバード大学、ジョンズホプキンズ大学研究員、高崎経済大学准教授、同志社大学大学院准教授等を経て2025年より現職。Yahoo! Japan、『朝日新聞』国際問題コメンテーター。主な著書に『戦争違法化運動の時代』（名古屋大学出版会、2014年、アメリカ学会清水博賞）、『Z世代のアメリカ』（NHK出版新書、2023年、中公新書大賞4位）、『自壊する欧米—ガザ危機が問うダブルスタンダード』（共著、集英社、2024年）、『アメリカの未解決問題』（共著、集英社、2025年）等。共訳・解説に『リベラリズム—失われた歴史と現在』（ヘレナ・ローゼンプラット著、青土社）。



参加費：会員は無料、非会員は500円

参加登録：非会員の方は当会（下記）まで氏名、メールアドレス、所属を連絡願います。

一般社団法人 縮小社会研究会 e-mail: jimukyoku@shukusho.org HP: <http://shukusho.org/>